

平成19年03月15日

〒590-0494

京都大学原子炉実験所

助手・小出 裕 章 様

〒177-0041 4-25

蒼天社政治情報センター

代表・石川 鐵 也



公 開 論 議 書 X

本日、平成19年3月6日付公開論議書IXに対する小出論(3月12日付)をネット上にて拝見しました。5日の週は近畿方面に出張しておりましたので、現物を拝見することができませんでした(私も小出さん同様に多忙です)。

さて、小出さんとの遣り取りも14回目(本日、何故か第13回分だけがネット上から消去されていまして)となりましたが、小出論の内容は言い分け的な繰り返しに他なりませんでした。愚痴や言い訳といったこれまでの文言から、小出さん自身、公開されたことを後悔しているものと推察されます。

よって、これまでの要点を整理し最終論議に入らせていただきました。今般内容をも鑑みれば、次回論議で終了するものと予定しております。小出さんが具体的に反論してくれば、私もそれなりに再反論できるのですが、愚痴や言い訳ばかりでは再反論する気にもなりません。最後の踏ん張り、宜しくお願い申し上げます。

— 記 —

1. 地球温暖化問題について —

小出さんは今般、「地球温暖化問題の本質は、約200年前に起きた産業革命で始まったエネルギーの大量使用自体にあります」と述べられました(苦笑)が、「どうぞ、人類誕生まで溯ってください」と言わざるを得ません。

また、「私は原子力をやめて火力にすればいいなどと主張しているわけではありません」と言い訳されておりますが、小出さん。貴方は「原発は即刻全廃しても電力供給に支障がありません。原子力の燃料であるウランなど大変貧弱な資源であり、そのようなものに人類の未来をかけること自体が間違っています。中期的には石油、石炭、天然ガスで行くしかないでしょう」、「火力発電設備に余裕があるとの私の主張自体には石川さんからの反論がないので、私から特に言うべきことはありません。何度も書きますが、原子力を即刻廃止しても、発電設備としては十分に余裕があります」と断じていますよ。

小出さん、石油、石炭を燃料とするのは火力発電ではありませんか。自分の発言には責任を持ってくださいね！

2. 太陽エネルギーと原子力発電の類似性について —

類似性については反論ありませんでした。生活、それ自体にリスクも含まれているのです。太陽エネルギーと原子力エネルギー、貧資源国・日本の重要なエネルギー源です。

3. 原子力発電の必要性について —

小出さんも、「原子力は事実として存在しています。当たり前のことですし、それを私が否定しているのではありません」と述べられております。現在における原子力発電の必要性は万人が認めるところであり、貧資源国・日本のエネルギー戦略、現状におけるその多様性からいっても「必要不可欠」と言わざるをえません。

ところで小出さん、何の電源設備に十分な余裕があるのですか？火力発電ですか？まさか、違いますよね？

4. 核燃料サイクルについて —

小出さん、意欲無き者、興味の有無で物事を判断する者からいえば、「サイクル実現の見込みがありません」となるのでしょうか、小出さんも認めるように、科学や技術は一步、一步と進歩するものです。「絶対的否定は時期尚早」と断言します。

5. 高レベル放射性廃棄物の処理・処分について —

小出さんも、「科学はもちろん一歩ずつ進歩します。今後の研究で地層処分よりましな処分方法が見つかる可能性はもちろんあります」と断じられました。しかし、小出さんのように諦めた者や興味の有無で行動する者には進歩はえられません。

私は、既に存在している高レベル放射性廃棄物を、より安全に処理・処分することが、子孫の為にもなると信じて行動しているだけです。小出さんのように、「私は、東京電力や関西電力等の電力会社の本社の地下にその施設を作るべきだと主張しています」と感情論を述べるだけでは駄目なのです。「有権者としての責任を認識する者と認識できない者の違い」と言えばそれまでですが、場当たりの感情論や反対ありき論では何事も解決するものではありませんよ。

また、「中間貯蔵施設を都会に作るべきだとの主張は原子力を推進しているブレーンからもすでに出てきています」と述べられていますが、小出訳でも「都会に作るべきだ」とは記されておりません。読解力を高めてくださいね。

6. 高レベル放射性廃棄物処分場の応募について —

小出さん、貴方の原点は「興味の有無」にあるのですね。「ちゃんと議論をすべき」と言うのであれば、感情論は一時棚上げしてください。「押しつける」と「誘致する」は意味が異なります。「地方は駄目で都会は歓迎する」など、感情論の最たるものです。地方であれ、都会であれ、議論を尽くせば良いのです。「小出さんの原点(興味の有無)など論外」と断言します。

7. 公募に対する応募時の対処方について —

小出さん、貴方はどうして興味の有無で判断されるのでしょうか。小出さんには面白いと写りましたか。私が、「大事なことは、首長単独で行うのではなく、住民の代表である議会の理解を得た上で実施することだ」と述べたのは、町長個人では弱いからであり、議会の理解を得るということは議論を尽くしたと言えるからです。

現行制度について一言で評価すれば「これまでの結果」と言わざるをえません。これまで、議論なき反対論や感情的な反対論が余りにも多すぎました。高知県も東洋町と議論されるようですから、黙って見守れば良いでしょう。

8. ウラン残土問題の反省点について ―

小出さん、貴方に言われずとも苦言、提言しております。おかげで、何もしない、したくない幹部には嫌われております。

小出さんは、あれを見てくれ、これを読んでくれとおっしゃいますが、私に言わせれば、「小出さんが言うような国の厳しい切り崩しなど一切行われておりません」となります。

多くの方が、「国が全面にでるべき」とおっしゃいますが、尻を叩かれた国が全面にでると、「小さな山村で生きてきた純朴な人たちにとって、国が個別訪問してくることが、どれほどの重荷と脅しになるか、お分かりにならないでしょうか」と言うのでは話しにもなりません。私は、「あの程度の個別訪問で終了とは情けない。信念をもって対処していない証しだ」と叱りました。故に、「国や動燃が行ったのはお願いであり、相談に外なりません」となるのです。それでも、「厳しい切り崩しがあった」と言うのであれば、いつ、どこの誰が、誰のところに行って、何をしたのか、その時に住民はどの様に応じたかについて、もう少し具体的に説明いただけませんか。

また、記載された書物を購入する気はありません。小出さんの申し出を受けて拝見した文言（榎本訴訟意見書「決して僻んで言うわけではないが、年間数十万の研究費で研究している一人の私に対して、被告は国の機関として」云々）に従い、「貴方は給料の他に年間数十万の公費をいただき研究しているようですが、一体何を研究し、これまでに、どれだけ国民の為になる成果を出されたのでしょうか？」と質したのですが、無視されたからです。小出さんが公費を受領したこれまでの期間、一体どれだけ国民の為になる成果を出されたのか、是非ともその詳細を公開していただきたいものです。

以上